

2020年9月8日

## 「海事DATA/AIアイデアソン」の開催について

株式会社シップデータセンター（ShipDC）が事務局を務めるIoS-OP（Internet of Ships Open Platform）コンソーシアムでは、2020年9月1日および2日に、東京（主会場）、大阪（副会場）および尾道（中継会場）にて「海事DATA/AIアイデアソン」を開催しました。

IoS-OPは、船舶運航データ利活用のための共有基盤として、世界に先駆けて構築されました。第1期（IoS-OP 1.0：2015～2019年）として、データオーナーシップを始めとしたデータ共有に関するルール作りと関係者による合意、およびデータ共有にかかるIT基盤の整備を実施しました。現在は第2期（IoS-OP 2.0：2020～2024年）として、実ビジネスでの船舶運航データの活用促進を実施しています。IoS-OPは、船社・造船所・船用工業・保険・船級・ICTなど業界を横断し、また競合他社も含めて合意した枠組みであり、他業界と比較して最も進んでいる取り組みであると評価され、業界内外・海外海事関係者からも注目されています。

当日は、将来の海事業界をけん引する若手・中堅参加者が所属企業の業務にとらわれず、他の参加者とともに「DATAやAIを活用して、世界をどうしていきたいのか、そのためには何をすべきなのか」を真剣に議論し、社会課題の解決や新たなビジネスに向けたアイデアの創出とブラッシュアップを、講師およびアドバイザーと一緒に行いました。

「海事DATA/AIアイデアソン」は、以下の企業・団体よりご後援・ご協力をいただき実施いたしました。

- プラチナスポンサー： 一般財団法人日本海事協会
- ゴールドスポンサー： 川崎汽船株式会社  
株式会社商船三井  
日本郵船株式会社
- シルバースポンサー： 今治造船株式会社  
株式会社ジャパンエンジンコーポレーション  
ジャパン マリンユナイテッド 株式会社  
大洋電機株式会社  
株式会社三井E&Sマシナリー
- 協力： 一般社団法人日本船主協会  
日立造船株式会社



株式会社シップデータセンター  
〒102-8567 東京都千代田区紀尾井町 4-7  
TEL : 03-5226-2261 / FAX : 03-5226-2174  
E-mail : contact@shipdatacenter.com

なお、「海事DATA/AIアイデアソン」の様子は、以下の海事プレスおよび日本海事新聞の記事にてご覧いただけます。

- IoT-OP組織、業界初の「アイデアソン」データ・AIの活用で業界課題解決、ビジネス創出へ（海事プレス：9月2日）＜次ページに掲載＞
- 海運業界初のアイデアソン、フラットに活発な議論。郵船・石澤氏「明るく試行錯誤を」（日本海事新聞：9月4日）  
<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=260460>
- 郵船・石澤氏、「伝票技術の標準化が鍵」。物流IoT、ShipDCイベントで講演（日本海事新聞：9月2日）  
<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=260368>

以上

# IoS-OP組織、業界初の「アイデアソン」

■ データ・AIの活用で業界課題解決、ビジネス創出へ

社会課題の解決や新たなビジネス創出に向けたアイデアを競い合う、海事業界初のアイデアソン「海事DATA / AIアイデアソン」が1日に開幕した。シップデータセンター（ShipDC）が推進する船舶データ基盤IoSオープンプラットフォーム（IoS-OP）の発展に結び付けることを目指しており、IoS-OPの会員組織「IoS-OPコンソーシアム」が主催する。「IoS-OP3.0を考える」をテーマに、2日間の日程で海運業界の未来を担う若手・中堅者が、有識者らを交えてデータやAI（人工知能）を活用し、世界をどのように変えていくのか、そのために何をすべきかを真剣に議論する。

東京会場をメインに、大阪会場などとオンラインでつないで実施した。日本郵船の「NYKデジタルアカデミー」の石澤直孝学長が講師を担当。会員組織「IoS-OPコンソーシアム」参加企業の中堅社員が参加し、グループワークで積極的に意見交換した。

初日はグループワークに先立ち、講師の石澤氏が講演。アイデアソン実施に向けたヒントとして、海事・物流は多種多様な産業に関わるため、計り知れない多様性と広がりをもつこと、全世界の経済の10%超と巨大な市場規模を有すること、国際貿易の経済規模は

GDPを上回る成長率を見せていることなどを紹介。現在は、伝統的な物流ビジネスが終焉を迎え、新たなアイデア・実行力を持つ人が生き延びる時代だと指摘したほか、顧客ニーズに応える知恵と行動力次第では、新規参入者でも結果を出すことが可能などと説明した。

これまで当たり前だった状況を大きく一変させるような「ゲームチェンジャー」についても言及した。例えば、オゾン層保護や脱炭素化に向けた世界的な取り組みなど、世界を変えるような動きは「ゲームチェンジャーが大胆に世界を変える発想を持つことが第一歩となった」などと説明。新たな発想の創出に向け、参加者に「普段の生活から離れて、ゲームチェンジャーの発想に立って大胆なアイデアを考えてほしい」などと呼び掛けた。引き続き、「10年後のデータビジネス」をテーマに、グループワークを行った。

2日目は、グループワークの後、各チームがそれぞれのビジネスアイデアを発表。コンソーシアム会員らが審査員となり、価値提供、市場創造の観点から審査・講評を行う。

テーマとなっている「IoS-OP3.0」は、IoS-OPの進展を5年スパンで区切ったうち、2025年



グループワークの様子



講師の石澤直孝氏



オンライン形式で中継会場とつなぎ、実施した

～30年を定義したもの。同イベントを通じて、「IoS-OP3.0」の期間でのIoS-OPの高度プラットフォーム化への進化に結び付けることを目指している。

# 『海事DATA/AIアイデアソン』

## IoS-OP 3.0を考える

社会課題の解決やビジネスの創出に  
つなげていくためのアイデアをみんなで考えよう!



IoS-OP (Internet of Ships Open Platform) は、船舶運航データ活用のための共有基盤として、世界に先駆けて構築されました。第1期 (IoS-OP 1.0: 2015 ~ 2019年) として、データオーナーシップを始めとしたデータ共有に関するルール作りと関係者による合意、およびデータ共有にかかるIT基盤の整備を実施。現在は第2期 (IoS-OP 2.0: 2020 ~ 2024年) として、実ビジネスでの船舶運航データの活用促進を実施しています。IoS-OPは、船社・造船所・船用工業・保険・船級・ICTなど業界を横断し、また競合他社も含めて合意した枠組みであり、他業界と比較して最も進んでいる取り組みであると評価され、業界内外・海外海事関係者からも注目されています。

一方、海事業界においても、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が停滞・混乱している中で、海運・造船市況は大変厳しい状況ではありますが、現在の危機を正しく認識するとともに、来るべき未来を想像し、その未来に向けた取り組みを着実に進めていくことで、明るい未来が切り開かれるものと考えております。

今回のアイデアソンでは、将来の海事業界をけん引する若手・中堅参加者が所属企業の業務にとらわれず、他の参加者とともに「DATAやAIを活用して、世界をどうしていきたいのか、そのためには何をすべきなのか」を真剣に集中して議論し、社会課題の解決や新たなビジネスに向けたアイデアの創出 (IoS-OP 3.0: 2025 ~ 2030年) とブラッシュアップを、講師およびアドバイザーと一緒に行っていただきます。



申込みはコチラ



# 2020年9月1日 (火) ・9月2日 (水)

講師



石澤直孝氏

1991年 一橋大学商学部卒、日本郵船に入社。鋼材完成車などの不定期船や南米アフリカ航路などの営業を担当。2004年 日本郵船グループの技術開発子会社MTI設立とともに出向。ICタグ技術を利用した物流サービスの開発に携わる。2006年8月から14年までバーコード、ICタグの国際標準規格団体GSI/EPCグループ (本部ブリュッセル) 物流部会共同議長。2014年から19年までインドのNYK Auto Logistics (India) Pvt. Ltd. に出向。2019年4月からNYKデジタル アカデミー学長。

アドバイザー



満行泰河氏



仲山紘史氏

スポンサー

**K** "K" LINE  
川崎汽船株式会社

**MOL** 商船三井



日本郵船

**ClassNK**

協力：一般社団法人日本船主協会 日立造船株式会社

